

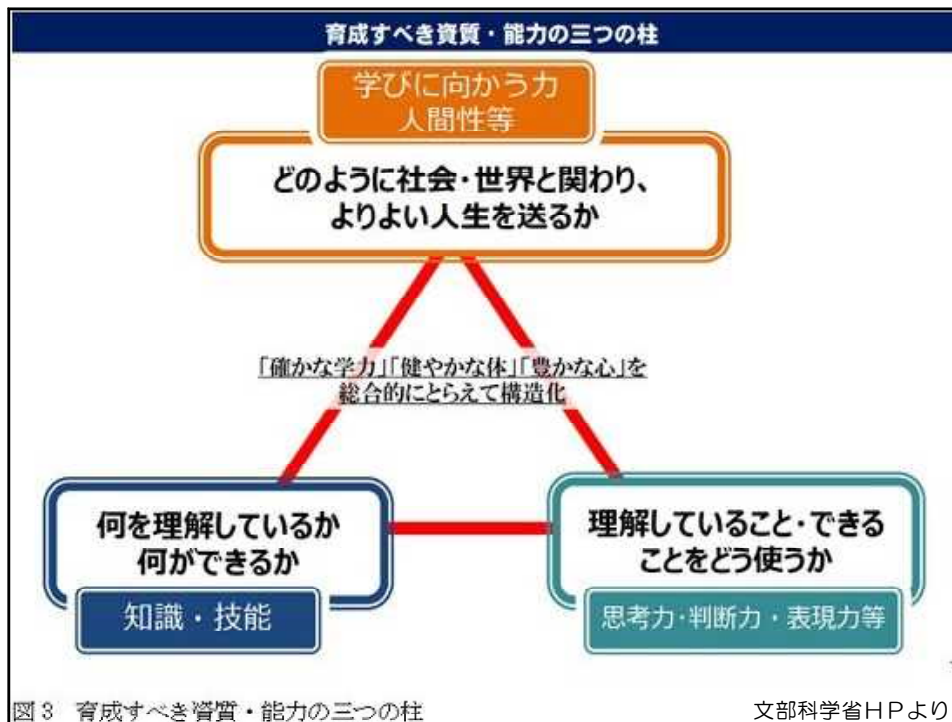
変わる学力観！なぜ「資質・能力」がキーワードなのか これからの社会で本当に求められるものは何か？

今、教育が大きく変わろうとしています。

これまでは、各教科で重要な知識を得れば、人生で出会う様々な難題に対して、この知識を応用して解決していけるだろうと期待されていました。しかし実際は、正解の決まった問題を単に数多く解いても、教科の分野を超えて自在に活用できるまでには至らないことが様々な調査や研究によって明らかになってきました。

「知識・技能」はもちろん大切ですが、あらゆる分野に活用するためには、「思考力、判断力、表現力」などの「資質・能力」が必要で、加えて問題に向き合う「意欲」や粘り強く取り組む「意志力」や意見や価値観を共有できる「コミュニケーション力」などの「資質・能力」がものすごく大きな役割を果たしているということが分かってきました。

ですから新しい学力は、次の図のようにこの3つが大きな柱となっています。



戦後日本は、欧米を追って復興を果たしてきました。トップが走った道跡に沿ってまっすぐ効率よく進むことができました。しかし日本もトップ集団に入ると新しい道作りを失敗を繰り返しながら始めなければなりません。トップと二番手では求められる力も異なってきます。

現在、科学技術のめざましい進歩の中で「正解」が変化したり、人によって「正解」が異なることもあるでしょう。「何を知っているか」よりも「何ができるか」

の方が重要だと考えられてきました。

世界と比して日本の教育では、その目的に「人格の完成」を法的に掲げています。ただ点数が取れば良いのではなく、「人としてどうであるか」という人間性も学力の要素であることが明文化されました。「学ぶ内容中心」から「身につけるべき資質・能力中心」へと重点がシフトしているのです。

「資質・能力」という言葉は、米国ビジネス界で用いられる「コンピテンシー」という概念からも影響を受けています。企業において、同じ学歴や知識レベルでも人によって業績に差が生じるため、高い業績を上げる人がどのような特徴があるのかを調べました。その行動特性などを「コンピテンシー」と呼んでいるのです。高い業績をあげる人は、その背景に必ず「理由」があるはずですが、業績だけを評価してもその「理由」は見えてきません。結果だけでなくその「過程」にも焦点を当てたものです。

でも、ここで疑問になるのが、この「学びに向かう力」や「人間性」などはどうやって測って、どのように評価するのか？ということです。

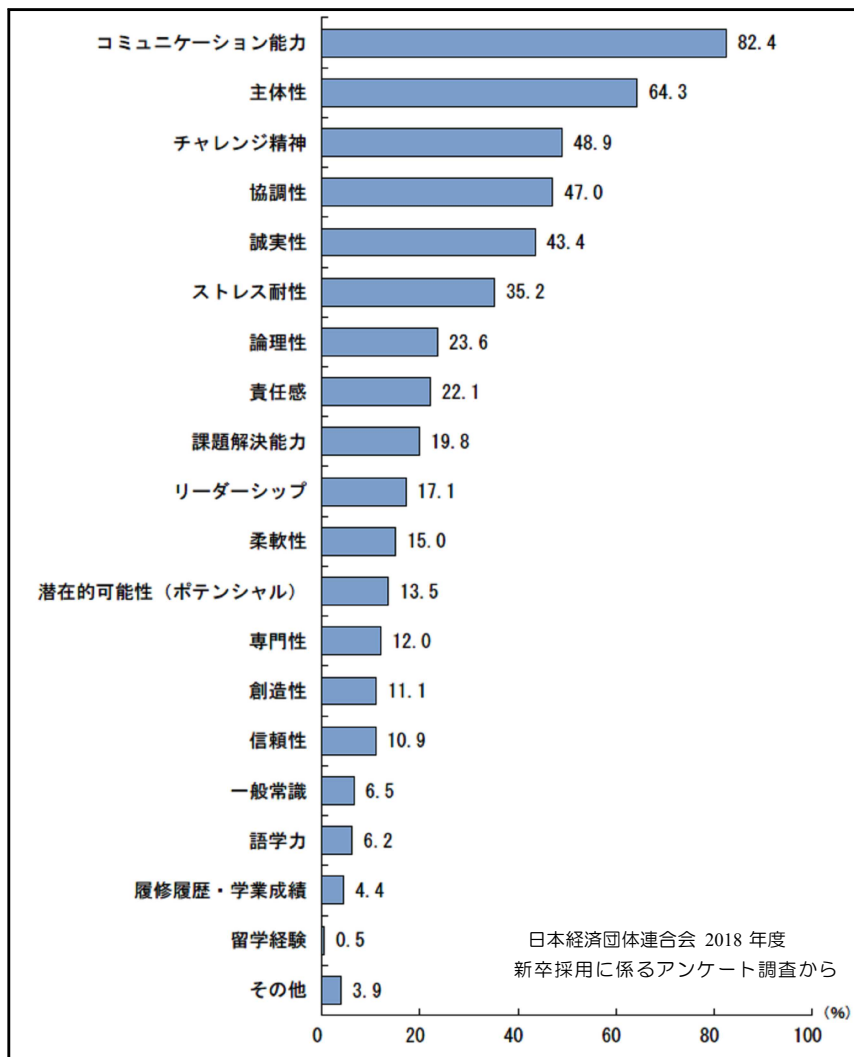
(裏面に続きます)

「評価」は他人との比較ではなく、自分のことを知るため 「意欲」も「粘り強さ」も筋肉と同じ、意識すれば身につく！

大学に進学したり社会に出ると、すでに答えが判明している問題よりもまだ正解が分からない問題や、解決方法がこれまでの延長線上にはない「ゼロからイチ」を生み出すものなど、新たな価値観を創造する力が求められるようになります。SSHで取り組んでいる「課題研究」がまさにそれです。このような活動を通して目標とする資質・能力を育てていきます。

「資質・能力」と聞くと、生まれつき固定されたもののようには思いません。最近の研究によると、「意欲」「粘り強さ」なども「学習」されるものであり、筋肉と同じように正しく鍛えると向上することが分かってきました。筋肉トレーニングと同様に、大切なことは「どの筋肉を鍛えるか」、自ら「意識」することです。ただし、これらの「資質・能力」は目に見えるものではありません。テストしたり点数で表すことが出来ないのだから分かりやすく評価されることがなく、大切なものなのに大きく取り上げてはこれませんでした。

しかし本当は大学入試でも入社試験でも、この「資質・能力」を知りたいのです。



右のグラフは昨年度、経団連が行っている「新卒採用に当たってのアンケート調査」で「選考にあたって特に重視した点」を5つあげてもらったものです。

「学業成績」や「一般常識」よりも「コミュニケーション能力」や「主体性」「チャレンジ精神」などの「資質・能力」が重視されている点に注目してください。この調査は毎年行われており、ほぼ同様の傾向が見られます。

この「資質・能力」が育っているかどうかを最も正確に評価できるのは、「自分自身」です。先生ではありません。

元々自分がどんな力を持っていて、何が得意で何が苦手なのか、本当の姿を知っているのは自分をおいて他にはいません。

そしてありのままの自分をしっかり受け止め、自分だけの価値をどう活かし、どのように豊かな人生を送っていくか、そのデザインに役立てるべきです。

AI時代の基本原則「Compasses over Maps」とは？

世界の状況は水が流れるように常に激しく変化しています。

「**Compasses over Maps**」という言葉があります。「地図よりもコンパスの方が大切、地図を作ってもその地図が完成するときにはすでに変化して使いものにならない。コンパス（目指すべき方向）をしっかり持って自ら動ける人になろう！」というものです

何度も言うようですが、「知識」が必要ないということではありません。「問題解決力」と「問題発見力」をバランス良く身につけることが最も大切だということです。特に注意が必要なのは、この両者は互いに正反対の方向性を持ち、「問題発見力」は若いときこそ大きく育つということです。今起きてきている大きな変化の本質を皆さんは是非見抜いてください。